

私はキャンプや休日によく魚つりに川へ行きます。川では、オシロコマや、イワナ、ニジマスなど、様々な種類の魚がつかれます。その中に、「ヤマベ」という魚がいます。ヤマベはきれいな水の川にしか住まない魚で、ヤマベがくらす川はきれいな水だということが出来ます。

ですが、そんなきれいな川も大きな町などを通ると、水がにごり、ヤマベも姿を見せなくなります。また、他の魚をつって食べても、くさくて、おいしくありません。上流の方の川はたくさん魚がいて水もきれいですが、下流に行くにつれて水はにごり、住む魚も少なくなるのです。このことから、町は、水をよごし、住む生き物を少なく、そして住んでいる生き物にもえいきょうをあたえるものだとわかります。

水をよごすもの多くとしては、生活排水が上げられます。生活排水というのは、生活を営む中で発生する排水のことです。例えば、お皿を洗ったときや、米をといだとき、洗たくをしたとき、手を洗ったときなど様々な場面で生活排水は発生します。みなさんは、油がどれだけ水をよごすか知っていますか？油五百ミリリットルが水に入っていると、魚がくらすようになるまで、水は、浴槽三百三十杯分、リットルで表すと約六万六千リットルも必要になります。他にもみそしる一杯は八百二十リットル、ラーメンのスープ一人分は、千六百四十リットルも水を使うのです。また、川を汚すものとして、ごみもあげられます。下流の川に行けば行くほど、ごみもたくさん見えます。ポイ捨てされたごみが風などで飛んで、川に入ったんだと思います。このようなごみが川や海を流れる中で小さくなると、水に住む生き物がごみを食べてしまつて問題になることもあります。

そこで私は、道や川に落ちているごみや、生活排水のよごれをへらす取り組みを提案します。例えば、洗濯や洗い物をするときの洗剤を減らすということです。洗剤を減らしてしまつたら、十分な効果を得ることができない、と思う人もいると思います。ですが、少し量を減らすだけなら、効果にあまり変化はないそうです。この取り組みは、川の汚れを減らすだけではなく、洗剤の節約にもつながる一石二鳥の取り組みです。他にも、油をふき取ってから洗う、できるだけ油は使い切る、ということや、水切りネットをつける、米のどぎ汁は畑や庭にまくなどと生活排水対策は、様々な方法があります。また、ごみは、きちんと分別し、リサイクルすることや、落ちているごみを拾い、川や海などに入らないようにするなど、ごみを減らす取り組みもあります。これらの取り組みは、私たちにも簡単に実行することが出来る取り組みです。

みなさんも、生活排水やごみを減らす取り組みをし、生き物が不自由なくくらすことのできる環境を作りませんか？そうすれば、きれいな水に住むヤマベは、下流にも姿を見せてくれるはずですよ。